

船橋市立医療センター建替基本計画【概要版】

平成29年3月に策定した「船橋市立医療センター建替基本構想」を踏まえ、新病院の「部門計画」、「施設整備計画」、「事業収支計画」等をまとめた基本計画を策定しました。

今後も、「海老川上流地区のまちづくり」と整合を図りながら計画を進め、平成35(2023)年度の開院を目指します。

全体計画

● 新病院の目指す姿

地域医療をリードする病院
救急医療の充実
高度な医療の提供
患者中心の医療の確立
災害に対応できる病院
教育・研修機能の充実
安定した経営の確保
働くことに喜びと誇りを持てる病院

● 新病院の役割及び機能

高度化する医療技術へ対応し、
さらに快適な療養環境へ

地域医療支援病院
救命救急センター（三次救急医療機関）
地域がん診療連携拠点病院
地域小児科センター
周産期医療
精神身体合併症
感染症医療
災害拠点病院
臨床研修病院（臨床研修センター）・臨床研究病院

● 新病院の基本的事項

- 診療科の充実（32科）
- 集中治療室系の充実（ICU20床、SCU15床）
- 手術室の増室（8室→13室程度）
- 緩和ケア病床の充実（25床）
- 外来患者数 1,200～1,500人/日程度
- 精神身体合併症病床の整備（7床検討中）

病床数

	一般病床	緩和ケア病床	ICU、SCU	合計
現在	412床	20床	17床	449床
新病院	441床	25床	35床	501床
増減	+29床	+5床	+18床	+52床

※このほか、一般病床で対応が困難な精神身体合併症患者を受け入れるための病床整備について、引き続き千葉県との協議を進めていきます。

部門計画（24部門）

救急部門・集中治療部門

- ・救急ICUと一般ICUの機能分化による受入態勢の強化（8床→20床）
- ・SCUの増床（9床→15床）
- ・救命救急医療の充実と地域医療機関との連携強化
- ・災害拠点病院としての機能強化

手術・中央材料部門

- ・手術室の機能強化
- ・腹腔鏡手術、ロボット支援手術の強化
- ・救命救急センターとの効率的な搬送動線の確保

主要な部門の計画

- ・専門外来の設置や外来患者指導の実施等、外来診療の充実
- ・外来診療室では関連性の高い診療科をブロック化し、ブロック受付を配置
- ・わかりやすい診察待ち表示や動線による患者満足度の向上

外来部門

各診療科、放射線診断・治療部門、臨床検査部門、看護部門、薬剤部門 等

サブセンター・・・心臓血管センター、重度外傷センター、リエゾンセンター、脳卒中センター、乳腺センター、
糖尿病センター（新）

病棟部門

- ・内科系、外科系を揃える臓器別配置による連携強化とチーム医療の推進
- ・ユニバーサルデザインを採用した病棟、病室設計
- ・アメニティやプライバシーに配慮した、良質な療養環境の整備

海老川上流地区のまちづくり・ふなばしメディカルタウン構想

現在、市では、市域の中心部に位置し、中心市街地にも近い海老川上流地区で、**医療センターの移転**と、東葉高速線の**新駅の誘致**を核とした、「海老川上流地区のまちづくり」を進めています。このまちづくりでは、医療や健康をテーマとした「**ふなばしメディカルタウン**」の実現に向け、検討を進めています。新しい医療センターは**新駅の近くに移転し、交通アクセスを向上**させます。

新たなまちの中核としての医療センターの機能

- ① 地域に開かれた医療センター
介護分野に関する手続きや保健分野に関する相談等が行えるようなワンストップ窓口設置の検討
- ② 予防医学への取り組み
人間ドックの実施等の取り組みについて検討



移転予定地

施設整備計画

高度かつ患者中心の医療を提供できる施設

中核病院として質の高い医療を提供できる施設整備

将来の「成長と変化」に対応できる施設

医療ニーズ、技術の進歩等に効率的かつ柔軟に対応できる施設

機能性、経済性に優れた施設

機能を効果的に発揮できる部門配置や職員・患者等の動線の重視

災害時に機能を発揮できる施設

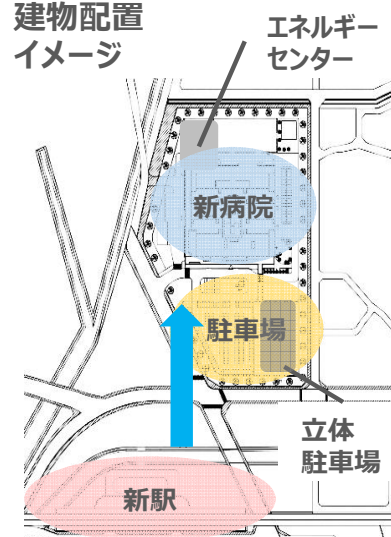
市民の命を守る病院として必要な機能の整備

● 建物配置計画

医療需要の変化や医療技術の進歩等の「成長と変化」に対応

- 利用者が安全に利用できる計画とし、新駅からの来院のしやすさにも考慮
- エネルギーセンターを設ける等、病院内のスペースの有効活用を検討
- 次期の建て替えや増改築等を見据えた配置計画

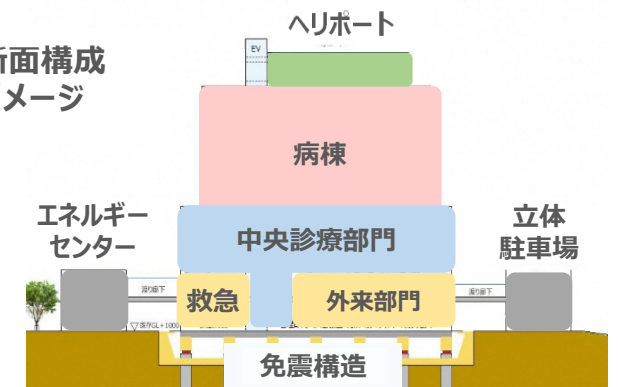
建物配置イメージ



建物規模の予定

延べ床面積
約50,000㎡
建築面積
約10,000㎡

断面構成イメージ



● 事業スケジュール

平成31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)	35年度 (2023)
発注準備	基本・実施設計	新病院建設	開院	

平成33（2021）年度中の着工、平成35（2023）年度中の開院を目標に、取り組んでいきます。

その他計画

医療機器整備計画
医療情報システム整備計画
物品物流システム計画
業務委託計画

事業収支計画

概算整備事業費は、総額437億円となります。
また、それをもとにして開院後の事業収支を試算したところ、開院後6年目までは損失が生じていますが、7年目以降は経営が安定する見込みです。